

脳梗塞による右片麻痺の対象者
～歩行時の右側下肢の支持性向上に介入して～

脳梗塞メディカルリハ 鈴木健太

【はじめに】脳梗塞により右片麻痺を呈した対象者を評価およびリハビリをさせていただく機会を得たので以下に報告する。

【対象者紹介】70代女性. 診断名：脳梗塞 障害名：右片麻痺
現病歴：平成29年にコイル塞栓術後にコイルが飛んで脳梗塞を発症
既往歴：平成29年3月 右大腿骨頸部または転子部のope実施

発表にあたり対象者に対し説明を行い同意を得

【主訴】お尻の痛みを取りたい

【hope】しっかりと歩いて買い物がしたい

【need】歩行時右殿部痛の軽減および右側下肢の支持性向上

【初期評価】

Br.Stage：左上肢・手指・下肢ともに stageVI

TUG：12,1秒 18歩

FRT：14cm

ROM：右股関節伸展制限あり

感覚：右側の表在・深部覚ともに軽度鈍麻

疼痛：歩行時に右臀部痛あり。 NRS 8/10

筋緊張：右側の内転筋および大腿直筋・大臀筋・下腿三頭筋が緊張亢進。

※プレテスト ①右片足立ちテスト 6,5秒



②MMTにて右股関節伸展「3」

③左側臥位で右股関節伸展位で10°

外転させた時の保持時間 3,8秒

歩行〔独歩〕：右踵接地時に右殿部痛あり。右立脚期に体幹右側屈が生じる。

【問題点】 歩行時の右大殿筋の収縮時痛および歩行時の右中殿筋の筋力低下

【リハビリ内容】

痛みに対して

大殿筋へのリラクゼーション

可動域拡大に対して

大腿直筋、腸腰筋の等尺性収縮を利用したストレッチ
側臥位でスリングを使用した股関節伸展への可動域訓練



支持に対して

中殿筋へのアプローチ

(背臥位→片膝立ち→立位) ※徐々に負荷量を上げる
立位では右立脚期を想定して重心移動訓練を行った

【最終評価】 (1ヶ月経過)

TUG : 11,06 秒 16 歩

FRT : 15 c m

疼痛 : 歩行時に右臀部痛あり。 NRS 2/10

※ポストテスト ①右片足立ちテスト 7,8 秒



②MMTにて右股関節伸展「4」

③左側臥位において右股関節伸展位で10°
外転させた時の保持時間 5,2 秒

歩行 [独歩] : 右踵接地時の右殿部痛軽減、右立脚期での体幹右側屈が軽減

【考察】

本対象者は70代女性で2年前に脳梗塞右片麻痺となった方で、hope はしっかりと歩いて買い物がしたいとのことである。右頸部骨折の後遺症から右殿部痛があるのと、もともと麻痺がある側で右への荷重がうまくいかない状態であった。そのため歩行時の右殿部痛の軽減および右側下肢荷重を促し、右立脚期の支持性向上を必要とした。Eberhart らは踵接地時に大殿筋が活動すると述べている。本対象者も右踵接地時に疼痛があることや疼痛部位から右大殿筋の収縮時痛であると捉えて大殿筋の収縮時痛を軽減させることとした。中殿筋の筋力低下に関しては、平山らは中殿筋の筋力低下では代償的に体幹を傾けると述べているため、右中殿筋の筋出力向上を図り支持性を高めることを目標とした。介入当初は疼痛のため荷重が困難であったが、疼痛軽減した事により荷重できるようになった事と、右麻痺側への荷重を集中的に介入したこと、中殿筋の筋力が向上した事により右立脚期の支持性が向上し、現在は買い物の時の疼痛も減少し歩きやすいとの事で実感されており以前より外出の機会も増えている。

